

## 委員会行政視察報告書

令和 4年 8月 3日提出

井原市議会議長 大 滝 文 則 様

報告者 総務文教委員会

委員長 柳 原 英 子  
副委員長 西 村 慎次郎  
委 員 三 宅 孝 之  
委 員 柳 井 一 徳  
委 員 坊 野 公 治  
委 員 大 滝 文 則

期 間	令和4年7月21日(木)～令和4年7月22日(金)
出張先及び 担当職員 職名・氏名	福岡県行橋市：小原議長、都市整備部 林部長、土木課 福田 生涯学習課 森課長、林係長、リブリオ行橋 小川館長 行橋市図書館業務責任者 正野、(株)図書館流通センター 今村九州支社長 議会事務局 安部 福岡県大木町：中島議長、産業振興課 廣松課長、高田、中島 大木町シルバー人材センター 猿渡事務長
出張者氏名	柳原英子、西村慎次郎、三宅孝之、柳井一徳、坊野公治、大滝文則 唐木英規(教育次長)、藤井隆史(議会事務局)
調査項目	福岡県行橋市 図書館等複合施設整備事業について 福岡県大木町 ふるさと納税について
(概要)	別紙のとおり
(所感)	別紙のとおり

1. 報告書は、視察・研修終了後1カ月以内に提出してください。
2. 概要、所感については、別紙を添付してください。
3. 所感には、1行目の右端に委員名を記載してください。

## <福岡県行橋市>

### 【調査項目】図書館等複合施設整備事業について

#### 【市の概要】

総面積： 70.06k㎡  
総人口： 72,566人 (令和4年7月1日)  
世帯数： 33,641世帯 (令和4年7月1日)

隣接自治体は、北九州市、築上郡築上町、京都郡苅田町、みやこ町。  
北九州市のベッドタウン化により、市制当初より人口は増加し、現在も増加傾向にある。  
北九州空港、東九州自動車道・行橋ICが国道201に接続した。  
市域のほとんどが平野部で山地は少ない。

#### 【事業の概要】

駅東側は、古くから商業地として多くの飲食店などが立地していた。駅西側を区画整理したことにより、多くのマンションが建設され、駅東側の賑わいが薄れてきている。

そうした中、駅周辺の市の所有地の利用について検討も重ねていた。

駅周辺に賑わいを取り戻し、まちを活性化するための牽引力としてこの事業を行った。

テーマとして、子供から大人・高齢者が集い、学び憩える交流空間づくり、地域活性化のための交流・往來を盛んにする施設づくりを基本コンセプトにし、整備計画を進めた。

#### ○図書館等複合施設整備事業の事業費について

当初契約 (H29.11)	4,941,337,241円
(内訳)	
施設整備費	2,365,529,681円
運営費	2,575,807,560円
変更契約 (R2.1)	5,020,258,771円 (変更増78,921,530円)
(内訳)	
施設整備費	2,393,253,071円
運営費	2,627,005,700円

※施設整備費は「設計及び建設工事等業務」、運営費は「開館準備業務」「維持管理業務」「運営業務」「その他の費用」の合計、運営期間15年間で運営費は分割払い。

#### ○PFI事業のメリット、デメリット、課題について

行政ではできないきめ細やかな市民サービスが提供できるという考えでPFI事業を実施した。

苦労したことは、補助金の活用をする場合、複数年かかる事業の中で、支払いが最終年度に集中するため、その年度に多くの補助金を充ててもらいが必要であり、国や県との調整に苦労した。

PFI事業の課題としては、人口規模が10万人以下の地方都市では、民間事業者の参入意欲がわくようなインセンティブが必要。

市民や議会からも抵抗があると感じており、丁寧な説明を行いながら進める必要がある。住民反対運動が起きた。H29.3月議会では1.6万人の署名とともに白紙撤回を求める請願が出され、否決されるなどの経緯がある。

### ○PFI事業による効果について

民間事業者でのきめ細やかなサービスが提供できている。

利用者の声は、常設の意見箱で集約されており、行政を通さず運営会社が対応している。

15年と通常の期間より長いため、様々な取り組みを中長期的な計画をもって行える。

ICTの活用や電子図書館システムの活用、自動貸し出し機等のIC機器の導入により、貸し出し、予約資料のセルフサービス化。インターネットでデジタル資料の貸し出しができる電子図書館システムを導入。

自主運営として、物品の販売、オプション提案として学習塾、フィットネス教室の誘致、ロボット体験などがある。

### ○複合化する施設の選定について

他の候補として美術館や歴史資料館などが挙がっていたが、やはり日常的に利用する回数が多いことでメイン施設は、図書館となった。

### ○複合化施設のメリット、デメリットについて

メリットとしては、子供から大人・高齢者まで学び憩える空間づくりができ、そこから交流・往来が盛んになる。交流の拠点となる。地域活性化に繋がる。

デメリットとしては、建設価格は高く、その後の運営管理にも費用が掛かる。

課題としては、コロナ禍での開館のため事業が計画通りには進まなかった。来館者数は伸びているので交流を地域に広げていくことが重要である。

### ○一時預かり保育サービスについて

託児機能としては、親子で遊べるプレイルームと小さな子供がいる保護者でも気軽に図書館を利用できる一時預かり保育を用意している。一時預かり保育については、託児専門の(株)テクノサービスに委託。

土、日、月の3日間、10時から16時まで有料の託児サービスを行っており、常時保育士が2名待機している。利用者は、初年度111名、去年は258名と順調に伸びている。

以下は、委員からの質問に対する回答

#### ①既存の図書館がありながら図書館の建設に至った理由について

施設面積が狭く学習スペースが不足している。(94席)

コンパクトシティ方針に基づき、高い集客能力を持つ図書館を中心部へ移転させることにより活性化の牽引力として、サステナブルなまちづくりを推進するため。地域住民との話し合いの中、検討を行ったことが契機であり、図書館が望ましいとなった経緯がある。



## <福岡県大木町>

### 【調査項目】 ふるさと納税について

#### 【町の概要】

総面積：18,44k㎡

総人口：13,924人（令和4年7月1日）

世帯数：5,204世帯（令和4年7月1日）

福岡県の西南部にある町で三潯郡に属する。久留米市、福岡市への通勤通学人口が22%を超える。筑後平野の一部であり、町内にはクリークが張り巡らされている。

産業としては米、イグサの栽培を中心とした農業地域。2000年以降は、きのこ類（ブナシメジ、エノキタケなど）・イチゴ・アスパラガスの栽培に力を入れている。

#### 【事業の概要】

以下は、委員からの質問に対する回答

##### ①ふるさと納税に関わる仕事内容・人員について

2人体制。専従者ではなく兼務。

（実務内容）

- ・各ポータルサイトの契約
- ・事業者との返礼品に関する覚書の締結（毎年）
- ・返礼品の寄附額設定
- ・中間事業者への指示及び協議
- ・寄附者からの問い合わせ対応（基本的には、中間業者が回答）
- ・返礼品及び送料の支出処理

##### ②ふるさと納税にかかる委託について

昨年までは、地域商社のクリエイティブおおきに委託。人数が減り体制が取れなくなり、今年度から有限会社久松と契約。久松は他の市にも入っている。

久松は、楽天やふるさとチョイスに強い。

（委託内容）

- ・7つのポータルサイトの管理
- ・寄附者からの問い合わせ対応
- ・返礼品の配送管理
- ・事業者からの問い合わせ

委託料は、寄附額の7%。うち4割は広告料、6割が久松の管理料(レジフォームで管理)。

ワンストップ特例申請サービスに関してはトラストバンクへ委託。

キラコンテツ商品。10,000円で寄附していただき、その次にお知らせメールを入れる。サイトの作りこみが大切。

※背景にある農産物の生産量

イチゴ 100名の生産者 12億 キノコ 48名の生産者 7億  
アスパラガス、コメ

※循環型のまち 食と農をつなぐ「くるるん」

平成18年から生ごみの分別収集に取り組み、し尿、浄化槽汚泥とともにバイオガス化し、施設で使用する電力の7割をまかなう発電燃料として活用。

バイオガス化で生じる残液を液体肥料として町内の水田に還元している。

その肥料で育てた米は「環のめぐみ」、菜の花から搾った菜種油は「わのかおり」として販売し食卓に上っている。

キノコ栽培からでる廃菌床をアスパラガスの栽培に使うことでの循環も行われて

いる。キノコ栽培は、九州一の産地である。アスパラガスは、福岡県内屈指の産地である。

③ふるさと納税収入の推移について

別表1。

④ふるさとの税にかかる経費について

別表2。

⑤リピート率について

レジフォームで分析できる。システム導入後の2015年以降においてのリピート率は、10%。67,354人中、6,925人が複数回寄附をされている。

2回以上寄附された方の平均回数は、2.39回。26回寄附された方もある。

努力していることは、町長が上京した時など大木町の出身で社長などになられている方を訪問して、寄附をお願いするなど。

⑥大木町のふるさと返礼品のベスト20について

返礼品としてはイチゴが一番の売れ筋。別表3。

⑦ふるさと納税の税収は、どんなところに使われたのか

ふるさと納税事業や赤ちゃんギフト事業、新規就農者事業に充当している。

令和3年からふるさと納税基金を設置、充当している。

⑧ふるさと納税の広告について

各ポータルサイトでPR枠を購入し、広告を行っている。年間2,000万円。

⑨家事支援や墓掃除などの代行サービスについて

2015年から行っている。大木町シルバー人材センター1社が請け負っている。

利用件数は4件で、3～5名。リピート率は高い。家の掃除は、鍵を預かることはしない。

(作業の流れ)

メールで連絡をいただき現場を確認する。

お客様に連絡を取る。

年間の作業の計画書を作り、請求する。

作業終了後写真を撮り、確認していただく。

(種類)

ふるさとの家お手入れサービス

寄附額27,000円

親孝行代行サービス

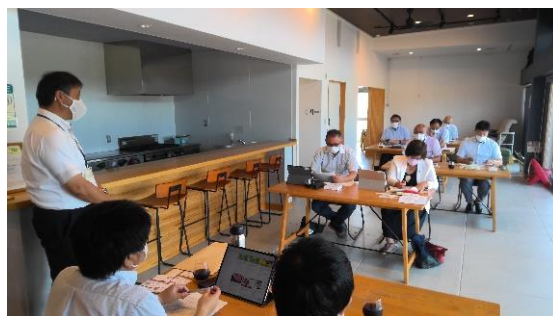
寄附額27,000円

ふるさとの家ピカピカお手入れサービス

寄附額70,000円

親孝行しっかり代行サービス

寄附額70,000円



(所感)

委員 柳原英子

<福岡県行橋市>

駅周辺の空洞化の対策のために住民との検討も重ねられ、図書館を選ばれた。そういう下地づくりは大切であろうと思う。地域交流の拠点、文化交流の発信拠点として図書館、文化交流施設、託児施設、駐車場からなっている。

北九州市のベッドタウンでもあり、人口も微増していることもあり、井原市はかなり条件の違いがある。しかし蔵書数は、27万冊に及び、座席数は、300席用意されている。また電子図書館システム、自動貸し出し機、など充実していた。

子育て世代にとってはこのような図書館が魅力的であろうと思う。

夏休みということもあり様々な年齢層の方が訪れ一階の交流スペースでは学生たちも集っていた。井原市においてもこのような他の公共施設などと複合化して特に子育て世代や、子供たちに使いやすく、まなびやすい施設の整備を検討する必要があると思う。

<福岡県大木町>

6億近い寄附額やはり主力のイチゴを伸ばすこと。担当職員は2名で兼務。事務的なことを外部に委託されている。地域商社的な取り組みをされていたが、人的問題により地域商社はやめ、ほかの市の委託も受けている楽天やふるなびに強い民間業者に事務を委託している。経費の問題はあるがこのような業者に委託を考えていいのではと思う。井原ではブドウが主力なのでこれをしっかりと伸ばすことが大切と思う。

家事支援や実家の墓掃除の代行サービスについては、井原市でも取り組んでもらいたいというところでの視察だった。

利用される方は少ないけれど、ふるさと納税の返礼品にされることはふるさとの実家の見守りになり、また帰ってきやすくなるツールになると思うのでぜひ取り入れてもらいたい。

(所感)

委員 西村慎次郎

<福岡県行橋市>

図書館等複合施設L i b r i oの視察を行った。図書館とホール程度の複合施設を想定していたが、プレイルーム、託児預かり所なども整備され、かつ、まちづくりや人の流れなどを考慮した、しっかりとしたコンセプトをもって整備されている施設であった。

外観は独創的な建物で市民が行ってみようと思うような人の気持ちを引き付ける外観で、中はゆったりとしていて落ち着いて本が選べたり読書が楽しめる空間になっている。席も300席用意され、利用目的に応じて席は選ぶことができ、利用者目線で整備・運営されている。

このようにハイレベルでハイクオリティな図書館等複合施設が実現できているのは、調達方式によるものなのか、人口7万強で、面積も60平方キロメートルというコンパクトシティだからできるのか、これを参考に井原市における図書館のあり方について、研究、検討をしていきたい。

<福岡県大木町>

ふるさと納税の取組について視察を行った。年間5億円以上の寄附があり、その対応を兼務の職員2名で行っている。ふるさと納税のポータルサイトの運営は外部委託されており、民間のノウハウを活用されている。

ポイントはスター商品（大木町はイチゴ）を作ること、また、スター商品から他の商品（家具など）へ導くしくみづくりとのこと。併せて、大木町は、町ゆかりの社長などへもふるさと納税のお願いをしているようである。

井原市も令和3年度は1億円を超えたが、継続していくには、体制づくりや上記のような取り組みが必要で、リピート率を上げるしくみづくりが必要である。

(所感)

委員 三宅孝之

#### <福岡県行橋市>

「リブリオ行橋」の運営スタッフに図書館司書は存在しない。図書館は、司書がいることが当然と思っていたので、全国500以上の図書館を手掛ける委託されたTRC（株式会社図書館流通センター）に運営が任されているのに驚いた。

施設内には、300席の座席数が確保されており、多くの人が学習利用できるよう工夫されている。窓際に沿って棚のように切れ目のない白い机が続いている。窓に向かって座るので行橋の景観が見渡せ、気持ちよく学習に取り組める。文化交流スペース、親子で遊べる託児スペース、避難所としての機能なども備えられ、幼児からお年寄りまであらゆる世代に配慮されている。運営する側ではなく、図書館を利用する側の目線で整えられていると感じる。9時30分～20時の開館時間、電子書籍の導入、無人で図書を借りる機械、過去の読書した図書をカードに記録する機械など、利用者にさまざまな配慮が施されていた。こうした利用する側のことを考えた施設は、図書館に限らず見習うべき大切なことだと感じた。

国からの支援金次第で委託料を含め本市も市民のために導入できると考えられる。

#### <福岡県大木町>

人口約14,000人の大木町は、2018年度には、14億を超える寄付額を集める。返礼率等厳格化で、現在の寄附額は約6億円となったが、10億円を目指しているという。ふるさと納税に携わる町職員が、わずか2人ということに驚く。町外で福岡県内の有限会社久松に委託し、業務を任せている。ふるさと納税の返礼商品は7社のポータルサイトに登録され、1,000点に及ぶ。そのうち「ふるさとチョイス」「ふるなび」「楽天チョイス」の3社で返礼件数の9割を占める。返礼品上位20のうち、11が大木町特産のイチゴとなっている。JAの協力で、毎年イチゴを確保しているそうだ。本市のふるさと納税も信頼するところに委託し、返礼品も特産のブドウを中心に種類を多くすることがふるさと納税の成功のカギだと考える。

成功している自治体の共通点は、利用する側の目線で考えられていることだと改めて気づかされました。利用者に対する細かい配慮なしでは、何事も成功しないと感じました。議員として初めての視察でしたが、ウェブや本を通しての資料は、もちろん役立ちますが、実際に現地で触れ、現地の職員に質問してこそ、重要なことを見出せるのだと感じました。未来の井原につなげられるよう努力していきたいと感じた視察でした。



(所感)

委員 柳井一徳

<福岡県行橋市>

リブリオ行橋（行橋市図書館等複合施設）は基本コンセプトとして、図書館を老若男女の市民交流施設とし、交流による地域の活性化、市中心部の空洞化の解消につなげることとしている。さらに経営を民間に任せる指定管理者制度の導入、指定管理期間を15年の長期に設定し指定管理者が効率的に経営できる環境づくりも考えている。

まず、この基本コンセプトに私は非常に感銘を受けた。図書館は本来学習の場として学生はもちろん、高齢者から子供たちまで読書好きな方のための施設の位置づけを自分では感じていたが、この複合施設『リブリオ行橋』はその本来の目的（読書スペース、学習施設等）以外に市民の交流広場として会議室、キッズルーム、カフェ、交流スペースが各階にある。さらに、ICT機器や貸出機、予約機など自動化で人件費の削減も図っている。

本市では芳井学習センターが同じように複合施設として利用されているが、別々の施設の感じがある。そして井原図書館は老朽化しており学習スペースすらない状態では本来の図書館機能は発揮できない。学生が自由に利用でき、地域の高齢者が集い、カフェで茶話する姿を見られるよう、井原図書館の早期建て替えを視野に入れながら、もっと研究し、委員会提言したい研修であった。

<福岡県大木町>

各市町村ふるさと納税の確保に地元農産品や特産品を利用し取り組みに努力されている。今回の視察先の大木町では本市のブドウと同じように地場産のイチゴ『あまおう』が上位に位置している。特産品はどここの市町村も代表的な農産品が多いが、この大木町はその運営を1年契約で民間事業者へ寄附額の7%の委託料で委託している。役場はポータルサイトの契約、事業者はサイトの管理をしている。寄附額はここ最近では5億円を超えており、変わった返礼品では、シルバー人材センターと提携し、故郷に残したひとり親や空き家の管理などの代行サービスを取り入れていることである。ふるさとの家お手入れサービス、親孝行代行サービス、ふるさとの家ピカピカお手入れサービス、親孝行しっかりサービスなど寄附額により代行サービス基準を設定しており、いい返礼品だと感じた。ただ、空き家の管理では鍵の問題があり家の中までの清掃ができないなど課題もあるが、本市でもシルバー人材センターの会員の仕事確保の面からも高齢化が進み一人暮らしの高齢者や空き家が増えている状況から、返礼品として成り立つのかもっと研究したい研修であった。

(所感)

委員 坊野公治

<福岡県行橋市>

事業目的が単なる図書館整備ではなく、中心市街地の空洞化に歯止めをかけ、集客力のある施設とすること。また将来的に魅力的な都市であり続けるために必要な施設とすることと、総合的に検討されているところが素晴らしいと考える。

整備事業に関しても、都市再構築戦略事業など国からの補助金を効率的に使っていることや、指定管理制度を15年という長期にわたって契約しているところは、市費の支出を抑え、安定的な運営を行うことができると考える。

実際に見学して、夏休みでもあり多くの来場者がこられていた。それぞれの年代で利用できるスペースがあり、憩いの場となっていた。

本市において現在図書館の整備計画はないが、現在の図書館を恒久的に利用することは難しいと考える。そうした中で、他の公共施設との複合化も視野に入れて、市民が利用しやすい、集まりやすい、特に子供たちが使いやすい施設整備を検討する必要があると考える。

<福岡県大木町>

約6億の寄付額となっているが、担当職員は2名である。事務全般を外部委託し、楽天を中心としたポータルサイトに力を入れている事により、寄附額を増やしている。餅は餅屋というように、経費の面も考えなければならないが、本市でも外部委託を検討してはどうかと考える。

返礼品に関しては、イチゴのあまおうが主力であるのは本市のブドウと似ている面があるので、研究してさらに伸ばすことを考えるべきである。

家事支援や実家の墓掃除代行サービスをふるさと納税の返礼品に入れているのは素晴らしい。本市出身の人にいかに本市に納税してもらうことを考えるとき、この取り組みは本市出身の方の納税となり、実家の親の見守りなども兼ねることができるので、本市でもぜひ取り組んでいくべきである。

(所感)

委員 大滝文則

#### ◎総務委員会視察におけるの考察概要

今回の委員会視察は、コロナウイルス感染症の影響で中止が続き約3年ぶりであり新鮮な気持ちをもっての視察となりました。視察においては、感染対策と市内事業者の支援策として、市内バス事業者を利用して行いました。

#### <福岡県行橋市>

老朽化した井原市図書館の今後のあり方等についての考え方を探るためコロナ禍の中で開館した行橋市図書館において、事業の目的及びコンセプト・計画から開館までの経過等について詳しく説明を頂きました。

図書館をまちづくりの拠点施設として、周辺の施設整備も併せて行い活性化を図る事業内容や管理運営は民間事業者指定管理を行うなど、今後の井原市図書館のあり方やまちづくりについてもおおいに参考になる内容でありました。

#### <福岡県大木町>

大木町は面積18.44km<sup>2</sup>、人口13,924人(令和4年7月1日)であり井原市よりかなり小さな町であります。

この小さな大木町が井原市よりも相当多額な(昨年度は約6億円)のふるさと納税の獲得をされているという現状について概要を説明して頂きました。

獲得においては、数量は圧倒的に特産物のイチゴであり金額においては、特産品の家具とのことでした。井原市においても特産物のブドウを中心とした食品が多くを占めるということで、井原市においても、ブドウ等の数量確保など今後の課題の参考にしたいと考えます。

また、ポータルサイトに掲載するため運営事業者に管理運営を任せることに民間企業ならでの、より効果的な発信と獲得が出来る循環を構築されており、これについても、大いに参考になる取り組みでありました。

#### ◎追記

8月1日総務省から令和3年のふるさと納税獲得額の公表がありました。昨年の井原市のふるさと納税獲得額は1億円を初めて超えたと喜んでいたところですが、他の市町の伸びも相当あったのか、結果的に獲得額は県内15市で1ランクアップの14番目でありました。令和4年はもう少しジャンプアップ出来たら・・・。